

「漫才で覚える日本語」 とは？

【概要】

日本語の授業に「漫才」を導入？ 漫才を作りながら日本語の授業を行います。日本語で漫才を作成するので「読む」「書く」「聞く」「話す」の能力を駆使します。

【講師】

スイス人との国際夫婦漫才コンビ “フランポネ” (吉本興業所属)

【対象】

外国人や留学生などの日本語学習者 (初級・中級・上級者を対象)

【経緯】

欧州初の女性芸人シラちゃん (スイス出身) は NSC(吉本興業が運営する養成所)に通い、漫才の作成方法を学ぶ。日本語で「漫才」を作成し、ネタを披露することで日本語の上達に繋がると考え「漫才で覚える日本語」を提案！

【場所】

学校の教室：少人数 (小教室 5-6名) から大人数まで (大教室・ホール 100名前後) まで対応可能

【所要時間と流れ】

- 60-90分を想定
- ・イントロ 0-10分： 漫才とは何かの説明
- ・ネタ見せ 11-20分： 芸人による日本語漫才のネタ見せ
- ・ワークショップ 20-50分： 生徒による漫才の作成とネタの披露
- ・まとめ 50-60分： 総評を行い終了
- ・質疑応答 60-90分： 60分以上のコマの場合、質疑応答の時間とする。

【ワークショップ形式の授業】

参加者が10人の場合、その場で5組のコンビを作り、漫才特有の挨拶「どうも～」と「本日はコンビ名だけでも覚えて帰って下さい」で始まるツカミ (約20秒前後) の部分だけをその場で作成します。最後に作ったネタを発表します。最も良かったコンビをその場で決める“N-1” (にほんごの N) を実施、その場で優勝者を決めるとゲーム性が出てさらに盛り上がります。